

発行—2022年3月30日

<https://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp>

編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会 前橋市荒牧町4-2(群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7180



PHOTO SPOT

群馬県立県民健康科学大学 附属図書館

当館は入口扉付近に学習スペースと開架書架のある閲覧エリア、奥に閉架書架とオーディオビジュアルコーナーを設置した1階建ての平面構造になっています。看護学、診療放射線学に関連した専門書・専門雑誌の取扱いを特色として資料の収集・保存を行っています。

新型コロナウイルス感染症に関連して、大学と学生たちの生活は変化が著しいですが、新たに電子ブックサービスの導入準備を進めるなど、本学の学生が求めるサービスと、これからの大学の学修の在り方に寄り添ったサービスの方針を日々模索しています。

CONTENTS

■ 研究会報告	令和3年度第2回大学図書館研究会	2
■ トピックス		8
■ 編集後記		9



研究会報告

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修
(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○令和3年度第2回

日 時：令和4年3月3日(木) 13時30分～15時50分

場 所：Web会議ツール(Zoom)によるオンライン

参加者：94名(大学図書館16名、公共図書館1名、学校図書館17名、一般60名(県外図書館含む))

講 演：「読み書きメディアの認知科学～未来の読書と図書館を考える～」

群馬大学情報学部教授 柴田博仁氏

【概要】

近年、読み書きのためのメディアの主役が、紙からデジタルにシフトしています。紙はデジタルで置き換えられるのか。デジタルメディアと比較した場合の紙の本質的な価値とは何なのか。認知科学の観点から様々な比較実験を検証し、導かれた結果は「読書は身体的行為である」ということ。それをふまえて、体験を重視する読書(Reading2.0)や図書館への期待が提唱されました。



配信会場：群馬大学



講師 柴田博仁氏

【参加者の意見等】

- 読書が身体性を伴う行為だというお話がとても興味深かった。読書をオシャレな趣味にしたい、前橋を読書のまちにしたいという先生の夢にワクワクした。
- 学生の読書離れ、デジタル資料の導入など現在抱えている課題にヒントをいただいた。今後も図書館へのご教示をお願いしたい。
- 司書教諭として学校図書館に関わっている。ノートとタイピングによる思考の違いや道具決定論の話が大変興味深かった。また、Reading2.0の提案も大変興味深いものだった。読書そのものの行為を進めることはこれまでもあったが、体験や読み方を普及したり支援したりすることはあまりなかった。SNSなどの普及により子どもの興味関心も変わってきていると思うので、それらにアンテナを高くしつつ、「読書活動」を推進していけたらと思う。
- 小学校の教員をしている。今回の講演は、どの部分もとても勉強になった。何となく思っていたことが、データの側面からはっきりと分かり、学習のあり方、付けるべき力を考えていく、一つの大きな根拠とできそう。

など、参加者のそれぞれの立場から実りある講演だったと感想が寄せられ、大変有意義な研修となりました。

研究会資料(1)

群馬県立図書館協議会様
群馬県図書館協会様

読み書きメディアの認知科学 ～未来の読書と図書館を考える～

2022年3月3日 (14:00～15:50)

群馬大学 情報学部
柴田 博仁

Hirohito Shibata 1 2022/03/03

自己紹介

- 専門
 - ✓ ユーザインタフェースデザイン、認知科学
- 講義
 - ✓ 「データサイエンス」「情報ネットワーク」「コンピュータシステム」「情報セキュリティ」「アルゴリズムとデータ構造」「マルチメディア論」「画像情報処理」
- 所属学会
 - ✓ 人工知能学会 (元理事)、情報処理学会 (シニア会員)
 - ✓ 日本画像学会 (フェロー)、日本印刷学会
 - ✓ Association for Computing Machinery (ACM)
- 略歴
 - ✓ 1994、大阪大学 理学研究科 数学専攻、修士 (理学)
 - ✓ 2003、東京大学 工学系研究科、博士 (工学)
 - ✓ 1994～2000、2003～2020、富士ゼロックス株式会社
 - ✓ 2020年10月、群馬大学に着任
 - ✓ 現在、群馬大学 情報学部 教授




Hirohito Shibata 2 2022/03/03

ライフワークと研究領域

ライフワーク
「人を賢くする道具を作る」

認知科学
人間の認知プロセスの解明を目指す

Human-Computer Interaction (HCI)
よりよいコンピュータツールの提供により知的活動を支援する

調査・実験

人を賢くする道具のお手本として紙を見ている

システム構築

Hirohito Shibata 3 2022/03/03

本日の前提

- デジタル技術には大きな利点がある
- 同時に欠点もある
 - ✓ 技術の利点は常に、別の側面から見れば欠点
- デジタル技術の利点を主張する文献や研究者は多い

今日はデジタル技術の弊害に焦点を当てる

ICT研究者が語るICTの問題点

Hirohito Shibata 4 2022/03/03

本日の話の流れ

1. 紙の読みやすさを捉え直す
 - ✓ 「文書は手で読む」
2. 手書きを捉え直す
 - ✓ 「人は書きながら・描きながら考えている」
3. メディアに適應する人間
 - ✓ 「読書は身体行為」
4. 読書と図書館の未来を考える
 - ✓ 「Reading 2.0」

Hirohito Shibata 5 2022/03/03

紙の読みやすさを捉え直す 「文書は手で読む」

Hirohito Shibata 6 2022/03/03

紙は好まれているが...

読むためのメディアとして、紙は圧倒的に好まれている。客観指標ではどうか？

紙とディスプレイとで

- 読みのスピードに違いはない (Gould 1987)
- 理解度にも違いはない (Muter 1991)
- 眼精疲労の客観値 (コントラスト感度、フリッカー値、視力) にも違いはない (冠2006)
 - ✓ 瞬きの頻度には違いが見られる (Benedetto 2013)
 - ✓ 長期にわたって読みを継続した場合の蓄積疲労は評価されていないが...

視覚特性の影響は大きくないようだ

Hirohito Shibata 7 2022/03/03

読みは線形か？



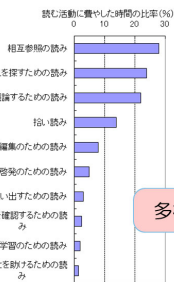
業務や学習では、むしろ、特殊

ジャン・フラゴナール
『読書する少女』
National Gallery of Art の提供

Hirohito Shibata 8 2022/03/03

研究会資料(2)

業務での読みは見ただけではない



- 業務での読みは
- 線形ではなくジグザグ
 - 複数の文書を並べて
 - ページ間を行き来して
 - ペンで書き込みしながら
 - なぞったり、指さしたり
 - 複数人で議論しながら
 - 紙と電子のメディアを横断して

多様な行為が行われている

Adler, A., Gajjar, A., Harrison, B., O'Hara, K., Sellen, A.J. A diary study of work-related reading: Design implications for digital reading devices. In Proc. of CHI '98, pp.241-248, (1998).

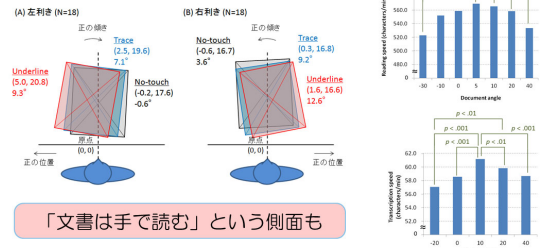
Hirohito Shibata

9

2022/03/03

文書を傾けて読む

横書き文書の読みやすい位置と角度



「文書は手で読む」という側面も

【出典】Shibata, H., Omura, K., and Quarfordt, P. (2018). Optimal orientation of text documents for reading and writing. Human-Computer Interaction, 33 (1), 79-105, Taylor Francis.

Hirohito Shibata

10

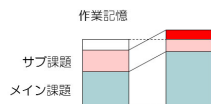
2022/03/03

認知負荷

「作業を行うのに必要な心的リソースの量」

人間の作業記憶（短期記憶）は 7 ± 2 (Miller 1956)
コンピュータに比べると格段に小さい。拡張もできない

作業に利用している心的リソース量を調べることはできないが、
大小を比較することはできる (二重課題法)



メイン課題の負荷が高くなると
サブ課題が圧迫され、
パフォーマンスが低下

サブ課題の例
刺激（音、視覚）に対する反応、記憶

Hirohito Shibata

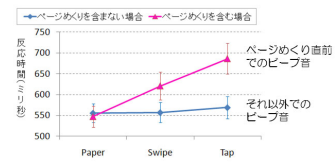
11

2022/03/03

ページめくりの認知負荷

二重課題
ヘッドフォンをしながら読む
音がなったらペダルを踏む

足元にペダル



操作の頻度が増えたと、
全体のパフォーマンスにも
影響するのでは？

- ページめくりを含まない場合、Paper = Tablet ($p > .1$)
→ 見るだけなら認知負荷に違いはない
- ページめくりを含む場合、Paper < Swipe < Tap ($p < .05$)
→ 紙でのページめくりの認知負荷が最も少ない
- Paperではページめくりを含んでも含まなくても同じ
→ 紙でのページめくりは注意を必要としない

Hirohito Shibata

12

2022/03/03

実験の全体像



読みの種類	実験課題	観察な行為
相互参照の読み	1. 複数の文書での矛盾点を探す	文書を移動する、並べる、重ねる
答えを探すための読み	2. 注釈付文書の読み	ページ間の行き来
議論するための読み	3. テキストから答えを探す	特定のページにジャンプ、読みながらめくる
指し読み	4. 写真集から写真を探す	ページをばらばらめくる
校正・編集のための読み	5. 2人で旅行プランを立てる	情報を探る、ページ間を行き来
自己啓発のための読み	6. 意味的や誤りを探す	なぞる、ポインティングする

【出典】Adler, A., Gajjar, A., Harrison, B., O'Hara, K., Sellen, A.J. A diary study of work-related reading: Design implications for digital reading devices. In Proc. of CHI '98, pp.241-248, (1998).

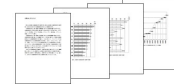
Hirohito Shibata

13

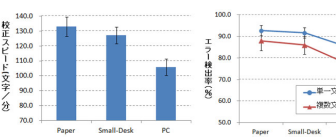
2022/03/03

実験1：複数文書の相互参照読み

「図から読み取れる情報とテキストでの主張に矛盾点があったら指摘してください」



Small-Desk 27インチディスプレイと同じ広さの机



- 紙はPCよりも25.5%速い ($p < .01$)
- 紙はPCよりもエラー検出率が10.7%高い ($p < .01$)
- PaperとSmall-Deskに有意差はない
✓ 広さの問題ではない、操作性の問題

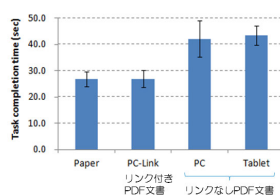
紙では文書移動、順番変更が容易

Hirohito Shibata

14

2022/03/03

実験3：マニュアルから答えを探す



ビジネスマナーガイド 84ページ (9章64節の詳細な目次) 片面印刷



- リンク付きPDF文書では、目次から節に迅速に移動できるが、やり直しが難しかった。
- 紙では目次の指をばさんでいた。すぐにやり直し

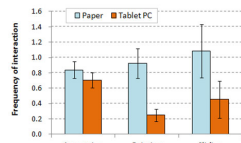
Hirohito Shibata

15

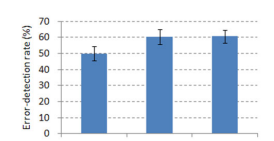
2022/03/03

実験6：校正読み

「文書をよく読んで意味的な矛盾点（数値が上昇したはずなのに減少の記述など）を見つけてください」



タブレットを利用するとテキストタッチの頻度が減少



同じ紙でもテキストタッチを制限するとエラー検出率が低下

Hirohito Shibata

16

2022/03/03

研究会資料(3)

読み書きでのメディアの比較研究のまとめ

読みの種類	実験課題	観察な行為	結果
相互参照の読み	1. 複数の文書での矛盾点を探す 2. 注釈付文書の読み	文書を移動する、並べる、重ねる ページ間の行き来	紙はPCより25.5%速い。エラー検出率は10.7%高い 紙はPCより6.8%速い
答えを探す読み	3. テキストから答えを探す 4. 写真集から写真を探す	特定のページにジャンプ、読みながらめくる ページをばらばらめくる	紙はPCに比べて36.5%速い。タブレットに比べて38.6%速い 紙はPCより20.9%速い。タブレットより30.2%速い
議論のための読み	5. 2人で旅行プランを立てる	情報を探す、ページ間を行き来	・紙はタブレットより8.0%、PCより9.6%発話量が多い。 ・紙はタブレットより35.7%、PCより74.5%指示代名詞の利用が多い ・紙はタブレットより93.8%、PCより124.3%アイコンタクトが多い
校正・編集の読み	6. 意味的や誤りを直す	なぞる、ポインティングする	紙はタブレットより17.2%エラー検出率が高い

紙は「見やすい」ではなく「扱いやすい」
紙は「表示メディア」というより「操作メディア」

Hirohito Shibata

17

2022/03/03

紙が扱いやすいのは紙がモノだから



- 紙に情報を乗せることで
- 情報をモノとして操作
 - ✓ 紙の整理は情報の整理
 - ✓ 紙の移動は情報の移動
 - ✓ 紙の量(重さ)は情報の量

- モノに対する操作の利点
1. 子供の頃から慣れ親しんだ操作
 - ✓ モノに対する操作方法は生涯不変
 - ✓ 慣れないと生死にかかわる
 2. 視覚に依存しない。触覚や聴覚を含めた豊富なフィードバック
 - ✓ 見なくてもページをめくれる。めくれたかどうか手の感触で確認
 3. 両手と10本の指を使って多様な複雑な操作を簡単にこなせる
 - ✓ 複数文書に対する同時操作
 - ✓ ページをばらばらめくっている最中に指を挟む
 4. モノの形状から使い方を類推できる
 - ✓ 見れば使い方がわかる

モノとしての紙の利点は
デジタルでの置き換えが難しい

Hirohito Shibata

18

2022/03/03

児童のほうがメディアの効果が顕著に(?)

12歳以下

- Grimshaw et al. (2006) PCで読むほうが時間がかかる
- Jeong (2012) 紙のほうが理解度が高い

15歳以下

- Mangen et al. (2013) 紙の書籍のほうが、物語の時系列的なつながりをよく覚えている
- Porion et al. (20116) 紙のほうが理解度が高い

18歳以下

- Kang et al. (2009) 電子書籍端末に比べて、紙のほうが読みが速い
- Kim & Kim (2013) 紙のほうが速くて、理解度が高い

大人(大学生以上)を対象にするよりも、子供を対象にするほうが、紙とデジタルでの読みに顕著な違いが見られるようだ。

現在、デジタル教科書の
評価実験を実施中

Hirohito Shibata

19

2022/03/03

手書きを捉え直す
「人は書きながら・描きながら考えている」

Hirohito Shibata

20

2022/03/03

講義ノートの取り方

- 課題：講義を聴いてメモ。後でテスト
- 条件：ノートPC、手書き
- 参加者：プリンストン大学の学生67名



結果

- テスト成績：PC < 手書き
- メモの単語数：PC > 手書き
- 講師の発話との重複：PC > 手書き
 - ✓ ノートPCでは講師が言ったことをそのまま書き起こし
 - ・ 大量にメモを取って満足
 - ✓ 手書きでは講師が言っていないことを書いている
 - ・ 講師が言ったことを解釈し、自分の言葉でメモ

PCでは考えないで書いている
人が入力マシーンになっている

「自分の言葉でメモを取る」
ように教示しても結果は同じ。
心がけでは行動を変えられない。
ツールが人の行動を決定する。

Hirohito Shibata

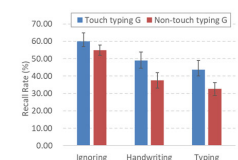
21

2022/03/03

手書きとPCの認知負荷

- 目的：手書きとキーボード入力の認知負荷を比較
- 課題：××しながら単語を記憶(二重課題)
- 条件：何もしない、手書き、タイプ
- 参加者：24名(20~30代)

[引用] Shibata, H. and Omura, K.: Reconsideration of the effects of handwriting: Comparing cognitive load of handwriting and typing. *ITE Transactions on Media Technology and Applications*, Vol.6, No.4, pp.335-361, (2016).



- 結果
- 手書きのほうが単語再成率が高い
 - ✓ タッチタイピングできる人もできない人も同じ

手書きでは書きながらも他のことに頭を使う。
タイピングでは(スキルと関係なく)
入力に集中してしまう。



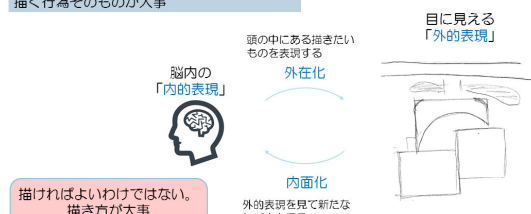
Hirohito Shibata

22

2022/03/03

「描く (drawing)」プロセス

描く行為は単なる「外在化」ではない
人は描きながら考えている (シェーン1983)
描く行為そのものが大事

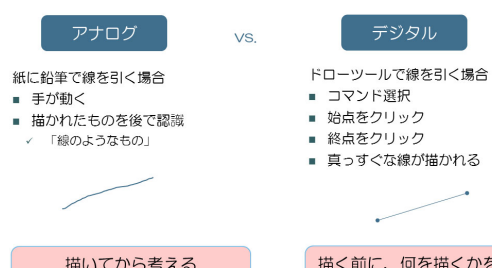


Hirohito Shibata

23

2022/03/03

アナログとデジタルの描画の違い



Hirohito Shibata

24

2022/03/03

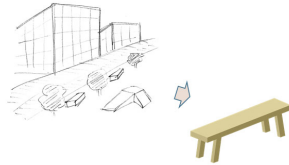
研究会資料(4)

デジタル表現が思考モードを変える

- 整った表現 (綺麗すぎる)
- 何度でもやり直せる

平行でない
位置が揃っていない

いきなり整形モード
表現に凝ってしまう
整った絵を描くことで誤った満足感
できあがるものまで変わってしまう



Hirohito Shibata

25

2022/03/03

手書き力テストの開発

「ココヨ式大人のかく力テスト」(ココヨ株式会社と共同開発)
<https://www.kokuyo-st.co.jp/stationery/feature/kakuryoku/>

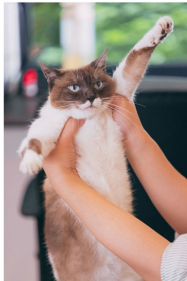


Hirohito Shibata

26

2022/03/03

伸びをしよう!



Hirohito Shibata

27

2022/03/03

メディアに適應する人間 「読書は身体行為」

Hirohito Shibata

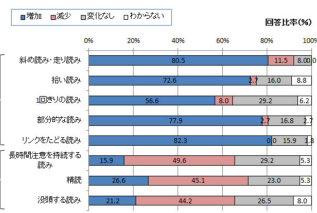
28

2022/03/03

デジタル環境の浸透で人の読み方が変わった

1993年から2003年での人の読み方の変化 (Liu 2005)

- デジタル環境での読みが増加
- 読む際には紙を好む人が多い (89.4%)
- いわゆる「浅い読み」が大幅に増加
- いわゆる「深い読み」が大幅に減少



「かつては当たり前でできていた深い読みが、いまでは苦労をともなうものになっている」(カー『ネットバカ』2010)

浅い読みしかできない人間になってよいのか?

Hirohito Shibata

29

2022/03/03

読む脳は後天的に作られる

スタンフォード大の発達心理学者・ウルフの研究

- メアリアン・ウルフ『ブルーストとイカ ～読書は脳をどのように変えるのか?』(インターシフト, 2008)
 - ✓ 読書のための脳のサーキット (読字脳) は子どもの頃の読書体験を通して後天的に作られる。訓練が必要
- メアリアン・ウルフ『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳 ～「深い読み」ができるバイリテラシー脳を育てる』(インターシフト, 2020)
 - ✓ 読書脳を育てるのは、見て、嗅いで、聞いて、触ることができる紙の本。一方、デジタル情報を効率的に取得する能力も必要。両方の読み方を習得する「バイリテラシー脳」を育成すべき

「浅い読み」と「深い読み」
両方できる人間にすべきだろう。

Hirohito Shibata

30

2022/03/03

デジタル読書の実体験を通してわかったこと

柴田のデジタル読書体験

- 2012年以降、小説の読書にAmazon Kindleを愛用。読んだ小説は80冊ほど
- 2015年、論文の読みでSony Digital Paperを活用。100冊ほど読んだが断念
- 2019年、専門書300冊以上を裁断スキャン。それ以降、Sony Digital Paperで書籍を70冊読んだ

わかったこと

1. 自分がどこにいるのかわかりにくい
 - ✓ 紙の書籍はアナログ時計、デジタル書籍はデジタル時計
 - ✓ 突然終わる。達成感が少ない
2. 書籍の著者名とタイトルを覚えていなかった
 - ✓ 表紙を見る機会が少なかった。著者情報もみなかった
3. どの書籍で読んだのか、誰の主張かを思い出せなかった
 - ✓ どのデバイスで読んだかを覚えていない。どの書籍かを覚えていなかった
 - ✓ 書籍の印象が悪い
4. 脳道にそれることが少なかった
 - ✓ ひたすら真すぐに読み進めた



読書は身体性を伴う行為であること
書籍は体系的知識であること
を実感する実体験だった

Hirohito Shibata

31

2022/03/03

読書と図書館の未来を考える

Hirohito Shibata

32

2022/03/03

研究会資料(5)

若者の読書離れ

大学生の約半分が読書時間ゼロ
(第54回学生生活実態調査の概要報告2019)

若者が読書をしない理由

- SNSやゲームに時間を奪われている
- 検索、クリックで情報が手に入る
- キュレーションでまとめてくれる
- 動画や画像のほうがわかりやすい
 - ✓ 読むのは時間がかかる
 - ✓ 読むのは苦痛

「映像で情報が手に入るのに、何で今更、活字？」

「読書は情報収集のため」と信じ切っている

Hirohito Shibata

33

2022/03/03

活字で情報を取ることに意義がある

同じ情報でも、活字で得ることと映像で得ることには大きな違いがある

- 「絶世の美女」は活字でしか表現できない
 - ✓ 「絶世の美女」は人それぞれ。映像はイメージを固定してしまう
- 映像を頭の中で作るプロセスに意義がある
 - ✓ 映像を与えられるより、映像を脳内で作る(イメージする)ほうが、脳に深い痕跡が残る(記憶に残る)
 - ✓ 実際に刺激を得るよりも、刺激を期待しているときのほうが、ドーパミンの放出が多い(喜びが増す)

活字が作り出す世界は無限

読みは想像
行為そのものが大事

読字脳は
意図的に鍛えないと
育たない

読書のすすめ

Hirohito Shibata

34

2022/03/03

提案「Reading 2.0」

	従来の Reading 1.0 (読解重視)	提案する Reading 2.0 (体験重視)
目的	読み解く 客観的に理解する 知る (情報を受け取る)	体験を楽しむ 主観的に解釈する 感じる (想像する)
読書で考慮すべき文脈	書き手の文脈 (時代背景、文化的背景)。読み手の文脈は排除	読み手の文脈 (読んだ場所、空間、雰囲気、天気、一緒にいた人、読みながら食べたもの、...)
読み方	最初から順に読む 全部読む	読みたい順に読む 読みたいところだけ読む
読んだ記録	書評に代表される整った文章 書籍全体の印象や感想	読んだ場所の写真 音声 (発話、街のざわめき、鳥の鳴き声、動画 感想語 (うおー、すげー) 本の一部に対するコメント
楽しみ方	知る、学ぶ	共感、人をつなぐ ブックツーリズム、聖地巡礼

Reading 2.0 用
電子書籍端末

読書SNS

読書好きの若者を増やしたい
おしゃれな趣味にさせたい

Hirohito Shibata

35

2022/03/03

私の夢

- 読書の推進活動をしたい
- 前橋を「読書のまち」にしたい
 - ✓ 街を図書館の拡張に
 - ✓ 長居できるカフェを増やしたい
 - ✓ ベンチで読書をありふれた風景に
 - ✓ 本を読むために前橋に
 - ✓ 老人が子どもに読み聞かせ
 - ✓ 健康なまち
 - ✓ 犯罪のないまち
 - ✓ 知的なまち



Hirohito Shibata

36

2022/03/03

図書館への期待

- 本の提供から読書体験の提供へ
- 本を探す支援から読み方の支援に
- 学びの支援から楽しみの支援に
- 独学の支援からつながりの支援に
- 街との連携
- 行政へのアピール

Hirohito Shibata

37

2022/03/03

メディア研究の成果をまとめた書籍

柴田 博仁、大村 賢悟
『ペーパーレス時代の紙の価値を知る
→ 読み書きメディアの認知科学』
産業能率大学出版部(2018)



Shibata, H. and Omura, K.
『Why digital displays cannot replace paper?』
Springer (2020)



Sellen, A.J. and Harper, (著),
柴田 博仁、大村 賢悟 (訳)
『ペーパーレスオフィスの神話
→ なぜオフィスは紙でできているのか?』
朝倉社 (2007)

Hirohito Shibata

38

2022/03/03

ご清聴ありがとうございました

Welcome!

h-shibata@gunma-u.ac.jp



Hirohito Shibata

39

2022/03/03

トピックス

放送大学群馬学習センター

吉岡町、藤岡市における英語多読入門講座

放送大学群馬学習センターでは、英語多読を通して学びの仲間を地域に広げることを目指し、群馬大学教育センターのベルジュロン・シルヴァン先生を講師にお迎えし、北群馬郡吉岡町及び藤岡市教育委員会と連携して、英語多読入門講座を開催しました。吉岡町及び藤岡市職員の方にご協力を頂き、回覧板にてチラシを配布し、広報等で受講生を募集しました。

英語多読とは、辞書を引かずに、分からないところは飛ばして先へ進み、楽しみながらたくさん読むことです。講座では、五人一組になり、英語で書か

れた物語を読み、内容や登場人物について想像を働かせ、議論し、会話します。

始めは戸惑っている参加者に、お手伝い頂いた当センターの学生たちが「こういう時はこう考えるのですよ」と、接していくことにより、時間がたつのを忘れるくらい、楽しく笑顔のある場になりました。

当センターでできることを再確認し、楽しい学びの場を実現していきたいと思います。

トピックス

共愛学園前橋国際大学図書館

「ぐんま方言かるたⅡ」2021年12月販売開始

群馬県の方言を取り入れた「ぐんま方言かるた」を書店などでご覧になった方はいらっしゃるでしょうか？2012年に発売し、1万部を売り上げたとのことです。

そしてこの度、第2弾となる「ぐんま方言かるたⅡ」が販売開始となりました。方言学、芸術、経済学の3つのゼミが、各々の強みを生かして企画から制作、販売に至るまで取り組んだ商品です。群馬県の大切な文化の一つである方言を若い世代へ伝えていきたいという想いを込め、商品のいたるところに学生たちのアイデアを取り入れた力作となりました。

読み札はコンクールを開催して選び、第1弾では使用していない方言を採用しています。群馬県ならではの「学校方言」や、方言かるたには珍しい「アクセント」にも着目したユニークな読み札が揃っています。方言と標準語を併記することで、方言を学ぶ教材としても活用できます。

絵札には切り絵を採用することで方言の持つ温かみを表現しました。「共生」や「多様性」について

も考えられるような絵札に仕上がっています。

なお、この商品には群馬県の方言をご存じではない方も遊べるように、エフエム群馬のアナウンサーの方々に協力いただいた読み札のCDがついています。

この「ぐんま方言かるたⅡ」、前作の「ぐんま方言かるた」が、多くの方々に方言の豊かさを感じていただき、群馬県に愛着を持つきっかけになりましたら嬉しい限りです。



トピックス

育英大学・育英短期大学図書館

「手づくり絵本コンクール ～Beyond the Borders～」を実施しました

今年度初めて、本学学生を対象にした募集企画「手づくり絵本コンクール ～Beyond the Borders～」を実施しました。（キャッチコピー「Beyond the Borders」は、国籍、年齢、障がいの有無など、ありとあらゆる境界線を越えるイメージを表しています。）

教員が授業内で参加を呼びかけてくださった効果もあり、予想を超える110点もの作品が応募されました。審査委員長に、絵本作家の野村たかあき先生をお迎えし、絵本学・児童文化・美術等の関連科目の教員と図書館運営委員会の担当委員で審査を行

い、入賞作品を決定しました。

1月13日(木)の表彰式では、野村たかあき先生から、入賞者の学生に表彰状が手渡され、入賞作品への講評もお話いただきました。

絵本を応募してくれた学生からは、「作るのが楽しかった」「来年も応募したい」との声が聞かれ、絵本を読むだけでなく、作ってみることで、新たな絵本の世界の楽しみ方を発見してくれたようです。最優秀賞に選ばれた絵本『くまのもり』は、印刷物として発行する準備を進めております。



表彰式



入賞作品



野村たかあき先生

お知らせ

2022年

第108回全国図書館大会

群馬大会開催！

来年度、第108回全国図書館大会群馬大会がオンライン形式にて開催予定です。

開催日時：令和4年10月6日(木)～7日(金)

動画配信：令和4年10月6日(木)～11月30日(水) ※予定

全体では17分科会を計画しており、本協議会からは、6名の分科会検討委員が第2分科会(大学・短大・高専図書館分科会)のテーマや講師の検討を進めています。

編集後記

研究会での柴田先生のご講演には、教育現場の方からの高い関心が伺えました。デジタルと紙での読み書きの認知の違いを科学的に知ること、それぞれの特性も整理されました。「識字脳は意図的に鍛えないと育たない」、図書館で働く身として、このことも忘れずにいたいと思います。

放送大学群馬学習センターが、今年度末をもって協議会を退会されることになりました。退会を前に、小野里センター長からご寄稿いただきました。長年に渡り協議会運営にご協力を賜り、誠にありがとうございました。